

極秘

内外國策私見

0105



秘

大正九年十月十六日軍事課寫冬部内第...号

内外國策私見 (大正九年九月稿)

子爵 高橋是清

今や我國ハ巴里講和會議ノ結果五大強國  
ノ一ニ加ハリ列國ニ對シテ嶄然優勝ノ地位ヲ  
占メタルニ拘ラス國歩ハ却テ頗ル困難ヲ  
加ヘタリ蓋シ歐州戰爭ニヨリテ攪亂セラレタ  
ル各國ノ經濟界及思想界ハ動モスレハ其影  
郷音ヲ我國ニ及ホサントスルモノアリ外交上ニ於  
テハ或ハ日支問題ト云ヒ日米問題ト云ヒ將タ  
又西比利亞問題ト云ヒ頗ル紛糾錯雜シ來リ  
テ是等ノ解決ハ寔ニ容易ナラサルヲ以テ也  
サレハ内外國策ノ確立唯此ノ時ヲ以テ然リト

0107

ス故ニ外ハ即チ列國トノ交誼ヲ厚フシテ我  
國ニ對スル幾多ノ誤解謬見ヲ拂拭シ我公  
明正大ノ心事ヲ諸外國ニ諒解セシメ内ハ即チ  
産業ヲ振興シテ海外貿易ノ進展ヲ謀リ  
以テ國民ヲシテ其堵ニ安セシメ教育ヲ普及  
シテ以テ我カ國體ノ精華ヲ發揚スルハ刻下  
ノ最大急務ナリトス信 今次歐洲ノ戦乱ハ所  
謂同盟側ノ敗北ニシテ聯合側ノ勝利ナリ他  
ノ言ヲ以テスレハ軍國主義ヲ奉シ世界ノ  
平和ヲ支持スルニ唯力ニ由リテ最後ノ裁断  
ヲ爲スアルノミト信シタル獨塊ハ一敗地ニ墮  
レ正義ト人道トヲ標榜セル英、米、佛ハ大勝  
利ヲ博シタリ尤モ軍國主義ト云ヒ將夕

正義人道ト云ヒ一概ニハ論レ難レト雖モ鬼ニ  
角ニ右ハ大體ニ於テ世界ノ公認セル事實ナ  
リ左レハ將來英、米、佛、伊等ノ各國ト共ニ  
世界ノ公道ヲ歩レテ我國モ亦五大強國タル  
眞面目ヲ發揮セント欲スレハ宜シク正義人道  
ニ重キヲ置キ此ノ點ニ関レ毫モ列國ヲレテ誤  
解セシムルノ舉動アルヘカラス然ルニ我國  
ノ制度文物ハ從來獨逸ニ模倣私淑セル點尠  
カラス加フルニ日清、日露ノ兩戰役及最近ノ戰  
争ニヨリテ世界ヲ驚嘆セシメタルヲ以テ深ク  
我國ノ實情ヲ知ラサル者ハ我國ヲ以テ第一ノ  
獨逸トナシ甚シキ至ツテハ我國ニ痛撃ヲ加フ  
ルニ非ンハ永久ノ平和ハ得テ期スヘカラストノ暴

論ヲ爲スモノナキニ非ス固ヨリ皮相ノ觀察ニ  
 レテ一笑ニ價セサルカ如シト雖モ斯クノ如キ誤  
 解ハ諸外國ニ於テハ案外有カナル方面ニモ唱  
 道セラレ國交上障礙ヲ來ス事ナキニ非ルヲ以テ  
 自ラ顧ミテ其原因ヲ探究シ若シ苟モ斯ル誤  
 解ヲ生セシムルカ如キモソアラハ眼前ノ小利ヲ捨  
 テテ斷然之ヲ改メ以テ國家永遠ノ名譽言ト  
 利益トヲ擁護スル所ナカルヘカラス以下其一二ニ  
 就キテ卑見ヲ開陳セントスル所以ナリ  
 一 對支要求ノ緩和  
 我國カ曰清戰役ニ於テ清國ノ情眼ヲ醒マシ  
 曰露戰役ニ於テ歐州ニ龍蟠虎踞セル露國  
 ニ一撃ヲ加ヘ武名ヲ發揚シテ以未既二十數年

ヲ經過ス然ルニ最近ニ於テ殊ニ日本ノ軍國主義  
義ナルモノ歐米ニ喧傳セラレ外交上ニ不信用  
ヲ来セル所以ハ主トシテ大隈内閣當時ニ於ケル  
日支交渉所謂二十一個條ノ要求ニ因由セリ當時  
歐洲列強國ハ戰正ニ酣ナルニ我國ハ極メテ  
大膽ニシテ且杜撰ナル要求ヲ支那ニ提出シ最後  
通牒ヲ發シテ之ヲ威嚇シタルハ甚ク支那人  
ノ感情ヲ害シ殊ニ所謂第五號ハ我同盟國ニ  
甘ハ秘シテ支那ニ致シタリシヨリ其一度中外ニ暴  
露スルヤ英米諸國ノ感情ヲ害シ且ツ其嫉妬  
心ヲ刺激シ支那人ノ自尊心虛榮心ヲ傷ケ  
今日ニ至ル迄歐米諸國ニ於テ我國ハ火事場  
泥棒ヲ働ク軍國主義者ナリト誤解セラレ支那

0111

ニ於テハ依然日債排斥ノ聲ヲ絶タス唇齒輔車  
ノ兩國カ殆ント大猿齧ナラサル怨恨ヲ生スルニ  
至リシモノ職トレテ之レニ存セスンハ非久既ニ  
今ラ日ニ及ヒテハ其要求中ニ於テ實行セルモノモ亦  
尠カラサルヲ以テ悉ク之レヲ撤回シ還附シ廢止  
スルニ難シト雖モ其緩和シ得ラルヘキモノハ之ヲ  
緩和シ撤回シ得ヘキモノハ之ヲ撤回シ還附シ得ヘキ  
モノハ之レヲ還附シ經濟的條件ニレテ而カモ我國  
ノ存立ニ必要ナルモノハ之ヲ中外ニ公表シテ其權  
利ヲ確保シ以テ國民ノ真意ノ存スル所ヲ明ニセハ  
度幾ハ相互ノ感情ヲ融和シ世界ノ誤解ヲ一掃  
シ我國ノ外交上ノ失態ヲ多少挽回フルヲ得ンカ  
今日ノ儘ニ放任センカ日支ノ關係ハ益々疎隔シテ

0112



到底圓滑ノ道ナク英米諸國ハ動モスレハ猜疑  
ノ眼ヲ以テ我ヲ嫉視シ他日ノ禍害愈大ナラント  
ス是レ一大英斷ノ必要ナル所以ナリ  
今試ミニ當時ノ要求ヲ檢スルニ其第五號ハ殆  
ント支那ノ主權ヲ犯シ英米諸國及支那人感情  
ヲ害シタルコト甚シカリシ中福建ニ関スル條項ハ  
除ク外ハ全部他日ノ機會ニ於テ協商ヲ爲スヘシ  
トノ意味ヲ以テ尚之ヲ留保シフ、アリト雖モ斯ノ  
如キ不當ノ要求ハ之ヲ撤回スルノ不安ナルヲ信ス又  
當時支那ノ承諾ヲ得タル第一號要求即チ山東  
及膠州灣ニ関スル條項ニ就キテモ努メテ之ヲ緩和  
シ專管居留地若クハ共同居留地等ノ名目ニ固執  
セスレテ支那人ノ希望スルカ如ク之ヲ自開商埠地

トシテ其名譽ヲ保タルノ方針ヲ以テ適當ノ時機  
 ニ於テ其行政權若クハ警察權ヲ支那ニ引渡シ同時  
 ニ山東鐵道沿線ノ我派遺兵ノ如キ出來得ル限り  
 速ニ之ヲ撤スヘキナリ又對支要求中ノ第三號  
 即チ漢冶萍問題ニ関シテハ漫リニ支那側ヲ  
 壓迫シテ低廉ナル代價ヲ以テ礦石ヲ我ニ賣渡サ  
 レムルカ如キ政策ヲ改メ歐米ニ於ケル市價ヲ標準  
 トシテ毎歲相當價格ヲ協定スルノ方針ヲ採ルノ必  
 要アルヘク滿蒙ニ関シテハ特殊事情存スト雖モ徒ニ  
 紙上ノ空權ヲ擁シテ以テ自ヲ得タリト為スノ風ヲ改メ  
 殊ニ支那人ト協同經營カ為スカ如キ場合ニハ善ク  
 彼等ノ利益ヲ尊重シ保護スルニ力メ以テ彼等ヲシテ  
 我ト共ニ俱ニ事業ヲ營ミ内地ノ開發ニ務ムルハ真

實負自己ノ利益タルヲ自覺セシムルヲ肝要ナリ  
ト信スルモノナリ下記ハ當時ノ協商ニ基キ爾來  
我ニ收メタルモノナリ附記シテ以テ參考トス

大正四年日支條約ノ内容

甲、山東省關係

一、獨逸ノ有スル利權ノ處分

支那政府ハ其處分ニ関スル日獨間ノ協定ヲ承  
認スヘキヲ

(尚獨逸ノ有スル利權左ノ如シ)

一、膠州灣租借權

二、鐵道ニ関スル利權

(一) 獨逸ニ於テ敷設權並經營權ヲ有スル鐵道

山東鐵道

(一) 独逸ニ於テ借款権ヲ有スル鐵道

高密韓莊線 濟南順德線 及 津浦鐵道北部線

(二) 独逸ニ於テ借款優先権ヲ有スル鐵道

煙濰線 及 關充線

三、鑛山採掘權 (膠州灣季附條約第三章第四條)

四、人、資本又ハ材料ノ供給ニ関スル優先権 (同第三章)

五、青島芝罘間及青島上海間海底電線

六、山東鐵道會社ト支那電報局トノ電信連絡

七、濟南及濰縣ニ於ケル独逸郵便交換局ノ設置

八、青島經由輸出入貨物ニ對スル釐金稅ノ免除

九、青島稅關長其他ニ獨人ノ任命及關稅收入一部分配

二、芝罘又ハ龍口ニ至ル膠濟鐵道支線

支那政府自ラ之ヲ敷設セントスル場合ハ日本資

本家ニ借款商議ノコト

三、諸都市ノ開放

支那政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ爲メ山東省内  
適當ノ諸都市ヲ開放スヘキコト

(附屬公文)

(イ) 山東不割讓ノ件

支那政府ハ山東省内若ハ其沿岸一帯ノ地  
又ハ島嶼ヲ外國ニ租與シ又ハ讓與セサル  
コト

(ロ) 都市開放ノ件

開放スヘキ都市及商埠章程ハ支那政府

ニ於テ日本公使ニ協議ノ上決定ノコト

乙、南滿州及東部内蒙古關係

0117

一、租借地及鐵道經營期限延長

旅順大連租借期限茲南滿州及安奉兩鐵道ニ  
關スル期限ヲ九十九箇年ニ延長スルコト

二、南滿ニ於ケル土地ノ商租

日本國臣民ハ南滿ニ於テ商工業上ノ建物建設又  
ハ農業經營ノ爲土地ヲ商租スルコトヲ得

三、南滿ニ於ケル住居往來ノ自由

日本國臣民ハ南滿ニ於テ自由ニ住居往來シ商工業  
其他ニ從事スルコトヲ得

四、東蒙古ニ於ケル日支合辦事業

支那政府ハ東蒙古ニ於テ日支合辦ニ依ル農業及  
附隨工業ノ經營ヲ承認スルコトヲ得

五、警察、課稅、裁判

曰本國臣民ハ支那ノ誓言察法令及課税ニ服スヘキコト  
民刑訴訟ハ被告ノ國籍ニ從ヒ曰本領事又ハ支那官  
吏審判ノコト但シ土地ニ関スル曰支人間ノ民事訴  
訟ハ支那ノ法律ニ依リ曰支共同審判ノコト  
將來司法制度改良ノ曉ハ曰本人ニ関スル訴訟ハ一切  
支那國法廷ノ審判ニ依ルコト

六、東蒙古ニ於ケル諸都市ノ開放

支那政府ハ或ルヘク速ニ外國人ノ爲適當ナル諸都  
市ヲ開放スルコト

七、吉長鐵道借款契約ノ改定

支那政府ハ他國資本家トノ鐵道借款契約  
ヲ標準トシ本鐵道契約ノ根本的改訂ヲ加フ  
ヘキコト

0119

(附屬公文)

(1) 租借期限ノ件

期限延長ノ結果旅順大連ノ租借ハ大正十六年

(一九九七年)滿鉄還附期限ハ大正九十一年

(二〇〇二年)安奉鉄道期限ハ大正九十六年

(二〇〇七年)ニ滿期トナルヘシ又滿鉄ノ運轉

開始ヨリ三十六年後ニ於ケル支那政府ノ買

戻権ハ之ヲ無効トス

(2) 東蒙古ニ於ケル都市開放ノ件

支那政府ハ其都市及商埠章程ニ付テハ

日本公使ニ協議ノ上決定スヘキト

(3) 南滿嶺山ノ件

日本國臣民力左記諸嶺山(既ニ試掘又ハ



採掘ノモノヲ除クヲ調査選定シタル節ハ支

那政府ハ其試掘又ハ採掘ヲ許可スヘキコト

奉天省内 牛心臺、田付溝、杉松崗、

鉄廠暖地塘(以上石炭)

鞍山站一帶(鐵)

吉林省内

杉松崗(石炭鐵)

缸窑(石炭)

夾皮溝(金)

(二) 滿蒙ニ於ケル鐵道借款及租稅擔保借款件

右外國ヨリ借款ノ場合ハ日本資本家ニ優先

商議スヘキコト

(三) 顧問招聘ノ件

支那政府ハ將來南滿ニ於テ外國教官備

聘ノ場合ハ最先ニ日本人傭聘ノコト

(ハ) 土地商租ノ件

南滿ニ於ケル日本人ノ土地商租ハ三十箇年  
迄ノ長期限附ニ且無條件ニ更新シ得  
可キ下

(イ) 警察及課税ノ件

日本國臣民ノ服従スヘキ警察法令及課税ハ  
豫メ支那官憲ニ於テ日本領事官ト協議  
シ施行スヘキコト

丙 其他ノ公文書

漢冶萍公司ノ件

支那政府ハ將来公司ト日本資本家トノ間ニ合辦  
ノ議成リタルトキハ之ヲ承認スヘク又同公司ヲ没  
收シ又ハ日本國資本家ノ同意ナクシテ之ヲ國有

トナレ又ハ日本以外ヨリ外資ヲ入レシムルコト無カルヘシ  
福建省ニ關スル件

支那政府ハ福建省沿岸地方ニ於テ外國ニ造船所  
軍用貯炭所 海軍根據地 其他一切ノ軍事上ノ施設  
ヲ爲スヲ許スカ如キコト 又外資ニ依リ前記施  
設ヲ爲サントスルカ如キ意思ナキコト

膠州灣還附ノ件

日本政府ハ現戰役終結後膠州灣租借地ニシテ全  
然日本ノ自由處分ニ委セラルル場合ハ左記條件  
ノ下ニ之ヲ支那ニ還附スヘシ

- 一、膠州灣全部ヲ商港トシテ開放スルコト
- 二、日本政府ノ指定スル地區ニ日本專管居留地ヲ  
設置スルコト

三、列國ニシテ希望スルニ於テハ別ニ共同居留地  
ヲ設置スルコト

四、右ノ外独逸ノ營造物及財産ノ處分茲其他ノ  
條件手續等ニ就テハ還付實行ニ先テ日支兩  
國政府間ニ協定ヲ遂クヘキコト

## 二、參謀本部廢止

次ニ我國ノ制度トシテ最モ軍國主義ナリト  
ノ印象ヲ外國人ニ與フルモノハ陸軍ノ參謀本部  
ナリ是レ戰前ノ獨逸帝國ノ制度ヲ模倣シタル  
モノニシテ軍事上ノ機關カ内閣ト離シ行政官  
タル陸軍大臣ニモ屬セス全然一國ノ政治圈外

并<sup>ニ</sup>獨立シテ獨立不羈ノ地位ヲ占メ帝國ニ軍事上ノミナ  
ラス外交上ニ於テモ經濟上ニ於テモ動モスレハ特  
殊ノ機關タラントス即チ在外派遣員ノ如キハ  
軍事上必要ナル調査研究ヲ事トスルニ止マラス  
時トシテ外交及經濟上ノ政策ニ容喙シ我カ  
外交ヲ不統一ナラシメ延テ國家ノ損害ヲ釀シ  
タルカ如キ例ハ從來僅少ナラサルナリ殊ニ  
軍人カ海外ニ於テ外交ニ關與スル如キハ前世  
紀ノ遺物ニシテ英米人ノ如キハ多ク謀本部  
ノ海外駐在員ヲ以テ陰險惡辣ナル外交官  
ナリトシテ最モ嫌疑擴斥セリ而シテ參謀  
本部ニ就テ最近桂逸帝國ニ於テ示セル實例  
ニ據レハ平素研究ニ施設セル軍事上ノ計

0125

画ハ最初ノ程コソ相應ノ效果ヲ奏シ威力ヲ逞フ  
 セリト雖モ戦争長期ニ亘リ敵國カ其秘  
 密ヲ知ルニ及ンテヤ殆ト策ノ出フル所ヲ知ラス  
 曾テ東西ノ敵ヲ假想シテ對抗策ヲ講シ之ヲ  
 撃破スルニ於テアラユル用意ヲ調ヘタリト雖モ  
 而モ英國カ蹶起シ伊太利日本米國等カ續  
 ヲ敵側ニ參加スルニナラス其年月愈久ニキニ  
 巨ルヤ豫定ノ計畫ハ益々齟齬シ全軍殆ト  
 收拾スヘカラサルニ至リ無残ナル敗北ヲ遂ケ  
 五十年來ノ計畫画ハ一朝ニシテ水泡ニ歸レタ  
 リ然ラハ參謀本部ノ如キ独立ノ機關ヲ以テ  
 軍事上ノ計畫ヲ立フルノ必要ナリ外ハ列國ノ誤  
 解ヲ招キ内ハ他ノ機關ト扞格ヲ來タストセハ

寧ろ口之ヲ廢止シテ陸軍ノ行政ヲ統一シ外交上ノ刷新ヲ期スルニ如カス海軍軍令部モ亦陸軍ノ參謀本部ニ對抗シテ設立セラレタルモノ幸ニ參謀本部ノ如キ弊害ヲ聞カスト雖モ之レ亦魚用ノ機關タルヤ一ナリ宜シク双方ヲ廢止スヘキナリ

### 三、農商務省ヲ廢止シテ農林省及商工省ヲ設置スルコト

以上ノ專ラ對外的關係ニ於テ肝要ノ事ナレトモ更ニ對内的ニ於テ頗ル其實行ノ望マシキハ農商務省ノ分離ト文部省ノ廢止トニシテ現在ノ農商務省ハ產業省ニ屬スル殆ト一切ノ事務ヲ抱擁ススルノ觀アリ即チ農林省、牧畜、

山林、漁業、水産業、製造工業、外國貿易、内地高業、保險、取引所、特許等ニ渡リ恰モ大規模ノ百貨商店ヲ見ルノ概アリ尤レハ如何ニ才能拔群ノ士ヲ以テスルモノヲ以テ能ク之ヲ統括シ各方面ノ事務ニ且リテ適宜ノ判断ヲ與ヘ機宜ノ裁決ヲ為スヲ殆ト不可能ナリト云ハサルヲ得ス殊ニ農業、牧畜、鑛山、森林、漁業、如キ所謂原始的產業ト商工業トニ對スル一國ノ產業政策ハ全然其性質ヲ異ニセサルヘカク其ナルヤ明瞭ニシテ前者ハ國家百年ノ大計ヲ基礎トシ十年二十年ニ渡リ永續的精神ヲ以テ一定不動ノ政策ヲ把持シ堅忍自強事ニ當ルカ必要ト為シ後者ハ日常ノ變

化甚タシク帝ニ内外ノ情勢ニ應シ其施設計  
画ヲ異ニセサル可ラス即チ尤モ正シキ時ヲ計リ尤  
モ正シキ手段方法ヲ選ヒテ之ヲ實行スルコト肝要  
ナリ而シテ之カ為メ内外ノ經濟金融商取引等  
ニ通曉シ明敏聰明ナル頭腦ヲ以テ諸般ノ事務  
ヲ裁斷シ時人ヲ指導スルノ必要アリ決シテ十年  
一月ノ如ク一定不動ノ繩墨ニシテ拘束セラルヘキニ  
アラスルナリ農林其他ノ原始的事業ト高工業  
トハ其性質全然相異スルヲ斯ノ如シ左レハ今日  
世界各國ニ在リテモ之ヲ分離シ各々独立ノ主務者  
ヲ設置スルノ常ナリ明治ノ初年ノ如ク我産  
業ノ發達尙ホ甚タ幼稚ニシテ從テ其指導ヲ監  
督ノ任ニ當ルニ於テモ亦極メラ簡潔小容易ナリシ

0128



時代ニ格別今日ノ如ク農工商共ニ非常ノ發達  
ヲ遂ケ各方面共ニ細ニ入り微ニ渡リテ集約的計畫  
ヲ為スノ必要アル時代ニ於テハ一以テ之ヲ責ムト云フ  
カ如キ單純ナル思想ヲ以テ複雑微妙ナル此經濟  
界ノ產業界ヲ指導監督シ得ハキニ非サルナリ  
二三ノ例ニ就テ之ヲ云フモ或ハ國民食糧問題ノ  
如キ時ニ其ノ低キニ過クルトアレハ數年後ニ高キ  
ニ苦ムトアリ彼ノ歐米諸國ニ於テ國民ノ常食  
タル麵粉ノ價カ平時殆ト一定不動ナルニ反シ我國  
民ノ常食タル米價ハ變動常ナク當局ハ動モス  
レハ其價ノ高低大ナル度毎ニ周章狼狽セサルヲ得  
サルカ如キ國民ニ取リテ非常ノ不幸事タリト云  
ハサルヲ得ス又國民ノ必需品タル鹽ノ問題ハ如何

0129

鉄及石油ハ如何、蠶絲及ヒ絲業政策ハ如何、四圍  
環海世界ニ比類稀ナル漢業場ヲ近海ニ有スルニ  
拘ラス水産業ノ振ハサル所以如何、將夕綿花、羊  
毛ニ對スル政策ハ如何、綿絲其他ノ投機的取引  
禁止ハ如何、海外貿易ノ發展策ハ如何、數ハ末レハ  
斯ノ如キハ皆國民生活上ノ重要問題タルカ甚然ラ  
サレハ國民經濟ノ独立ト將來ニ於ケル其發展トヲ  
期圖スル上ヨリ云フモ尤モ緊要ノ問題ナリト云ハサ  
ルヲ得ス然モ之等ノ中今日迄根本的方針ハ確立  
シタルモノ一モ之レアルコトナク孰レモ姑息偷安唯眼前  
焦眉ノ應急的事務ニ逐ハレテ日モ尚足ラサルノ有様  
ナリ  
斯クノ如クニレテ世界列強ト經濟上ニ其雄ヲ

競ハントスルカ如キ眞ニ思ハサルノ甚シキモノニシテ其  
影響有スル所國運ノ消長ニ関スト云フヘシ刻下ノ  
問題タル戦後ノ反動期ニ於ケル財界ノ動搖ニ際シ  
テモ各事業ハ大小新舊トナク概ニ皆經營難ニ  
陥リツ、アリ之ヲシテ此窮境ヲ脱出セシメ内ニ整  
理節約ヲ實行セシメ外諸外國トノ競争ニ當ラ  
ンカ為ニ各會社相互ニ合同シ若クハ聯合ノ組織  
ヲ設ケテ内冗費ヲ除キ外信用ヲ博シ以テ自  
ラ強フスルノ外ナキハ明白ナル所ナリト雖モ今  
日ニ至ルマテ其施設ノ促進スラ遲々トシテ進マサ  
ルカ如キ殆ト曰暮レ途遠キノ感ナクシハ非ラサ  
ル也而シテ斯ノ如キハ敢テ今日ノ農商務當局  
ノ責ニ非ス縱令何人カ其局ニ當リタリトスルモ

今日ノ如ク餘リニ廣汎ニシテ多方向ノ事務ヲ主  
 管セサル可ラサルニ於テハ勢ヒ放漫ニ流レサルヲ  
 得サルナリ即チ罪人ニ非スレテ制度ニ在リ尤  
 レハ余ハ斷然農商務省ヲ別チテニトナシ其性質  
 上同種ノ政策ヲ採ルノ要アル農林牧畜、漁業、  
 鑛業、治水等ハ農林省ヲシテ監督セシメ他ノ  
 一率ハ之ヲ商工省ノ監督トナシテ世界ノ状況  
 内外經濟界ノ趨勢ニ應レテ適切妥當ナル政  
 策ヲ講セシムルヲ尤モ可ナリト信スルモノナリ  
 而シテ今日外國貿易ニ関スル事務ノ如キ農  
 商務省ハ勿論其一部ハ外務省ニ於テ他ノ一  
 部ハ大藏省ニ於テ處理シツ、アリト雖モ斯ノ  
 如キハ一省ニ統一整理セシム可キヤ勿論ナリトス

要スルニ農商務省ヲ二分スルト同時ニ各省ノ事務  
ノ統一整理分合ヲ實行シ以テ行政上ノ能力  
ヲ増進セシムルト同時ニ一般人民ノ利便ヲ計ル  
ハ肝要ナリト云フ可シ

#### 四、文部省ヲ廢止スルコト

文部省ハ文教ニ関スル一切ノ事務ヲ統轄スル  
中心行政府ナリト雖モ一國ニ取リテ必スシモ必要  
缺ク可ラサル機關ニ非ス現ニ米國ノ如キ其機關  
ナク而シテ其國文教ナレト云フニ非ラサルナリ  
否我國ニ之アルカ爲メ大局ノ打算上不利ナリ  
ト認ム可キ點少ナカラス即チ今日文部省ノ最  
モ重キヲ置クハ全國ノ普通教育ヲ統一監督

指導スルノ點ニ在レトモ然モ普通教育ノ根幹ヲ  
ル小學教育ハ元來國民ノ處世上ニ必要ナル常識  
基礎ヲ養成スルヲ以テ目的トナスカ故全國劃一的  
ニ一定ノ規矩準繩ヲ設ケ其地方ノ狀況如何ヲ顧  
ニス全國ノ子弟ヲ一齊ニ教育セントスルハ貫ハ認  
見ノ甚シキモノト云ハサルヘカラス即チ大都會地ニ  
於ケルト山村僻邑ノ地ニ於ケルトハ四圍ノ環境全  
然異レリ故ニ子弟カ普通教育ヲ了リテ後實  
際活動界ニ入ル其準備的教育ニモ多少異リタル  
素養ヲ必要トスルカ如ク要スルニ普通教育ハ全  
例ヘハ田園子弟ハ農桑ニ関スル趣味ノ極限ト  
其素質ヲ必要トスヘリ都會地ノ子弟ハ手工又ハ

爲スマ論ヲ候タサル所ナリ

商業ノ初歩ヲ必要トスルカ如シ要スルニ普通教育  
ハ全国各地ノ民度及ヒ經濟上ノ状態等ニ由リテ  
夫レ夫レ其地方ニ適當セル教育ノ方針ヲ採  
ルヘキモノニシテ全國劃一的ニ之ヲ施スヘキモ  
ノニ非ス況ニヤ都市ト町村トハ各々其經濟  
財政ノ状態ヲ異ニスルニ拘ラス一定ノ年數ニ達  
セル子弟ハ必ス六年又ハ八年ト年限ヲ定メテ  
全國ニ渡リテ何等ノ例外ナク之ヲ強制セント欲  
スルカ故ニ地方小村落ニ於テハ今日教育費ノ  
爲メニ非常ナル苦痛ヲ感シフ、アルモノ極メテ  
多キニ於テヤ是レ餘リニ形式ニ捕ハラレ民度  
ノ如何ヲ顧ミスシテ劃一教育ヲ強制スルノ結果  
ニシテ教育費ハ町村ヲシテ疲弊困憊ニ導キ以テ

0135

アルモノト云フモ決レテ過言ニアラサルナリ而シテ  
斯クノ如ク全國平等劃一的ノ教育ヲ施ス其結果  
ハ青年子弟ヲレテ動モスレハ實際際ヲ離レタル平  
等思想ニ陥ラレメ社会ノ秩序上下ノ差別等ヲ  
一切無視スルノ感念ヲ抱懷セシムルニ至ル傾向ナ  
レト云フヘカラス  
左レハ小中学ノ施設經營監督ハ總テ之ヲ府  
縣町村等ノ地方自治體ニ委シ各地ノ地理歴史  
人情風俗經濟状態ニ適應シテ適宜ニ之ヲ施  
サシムルヲ以テ尤モ必要ナリト云ハサルヲ得ス若シ  
夫レ國民思想ヲ涵養良シ忠君愛國ノ傳統的  
精神ヲハ普ク全國ノ子弟ニ知ラシメント欲ス  
ルニハ必シモ文部省ヲ待ツヲ要セス内務省



ノ管轄トシテ全國劃一的ニ我歴史殊ニ建國  
ノ由來ニ基キ國體ノ精華ヲ顯揚セシム可キナリ  
即チ古今ヲ通シ東西ヲ融和シ輝然タル國民  
道徳ノ基礎トシテ現ニ教育勅語ノ存スルアリ  
之ニ則リテ修身處世ノ大本ヲ指示シテ以テ健全  
ナル國民思想ヲ涵養セシムヘキナリノ決シテ  
文部省ノ監掌トシテ存置セシムルノ必要ナク  
寧リ口内務省ヲシテ之ニ當ラシムルハナリ  
以テ妥當ナリトスヘシ現ニ内務省ニハ神社局  
アリ又思想問題ニ關シテモ不斷ノ注意ヲ致  
シテアル次第ナルヲ以テ之ニ委レテ決シテ其  
不可ナルヲ見サルナリ  
國民教育ニ關シテハ將ニ然リ次ニ各種専門

0137

此学校及大学ニ就テハ如何ト云フニ此等モ亦地方自治團體ニ委シテ始テ何等ノ差支アルコトナシ唯其經營ニ多額ノ費用ヲ要シ到底其收入ノ一ヲ以テテ經營困難ナル場合ハ之ニ對シ相當ノ補助ヲ國庫ヨリ支給スルハ敢テ不可ナリトセス又各官立大学ノ如キハ近來益々自治ノ精神ヲ發揮シ大学學長ヲ選舉シ内務行政ノ如キモ殆ニト文部省一手ヲ煩ササルノ有様ナルヲ以テ之ヲ独立セシメ各私立大学ト併立セシメテ其特典ヲ廢止シ自由ニ競争セシムルコト眞ニ學術ノ發達進歩ヲ計ル所以ナリト云フヘシ今日ノ如ク独り官立大学ヲノミ偏愛スルノ途ヲ講スルハ其大学関係者

等ヲシテ發奮努力ノ精神ヲ喪失セシム  
ルノミナラス一方ニ於テハ私立大學関係者  
及其學生ヲシテ知ラス識ラスノ間ニ不平  
分子ヲ醸成セシメ不断ノ政府反對者ヲ養  
成スルニ至ラサルヲ得ス故ニ各大學子ヲシテ  
自由平等ノ地位ニ立タシメ其教授等ヲシテ  
生計ニ獨立安固ヲ得セシムルト同時ニ競フ  
テ其職ニ忠實ナラシムルハ之レ實ニ學子向  
發達振興ヲ計ル所以ナリト云フヘシ  
以上縷述セシ所ハ言未タ盡ササル所アルヘ  
レト雖モ内外施設中最大重要ノ問題ナ  
リト信ス然モ關係ノ範圍極メテ廣汎ナ  
レハ其實行ヤ一朝一夕ニシテ期スヘカラズ

0139

ルヘシ左リナカラ将来ニ於テ我國策ノ  
推移ハ歩一歩此處ニ近カサルヘカラサルヲ  
思ヒ一片耿々ノ志國家ノ為メ黙シテ止ム  
能ハス敢テ先輩諸公ノ明鑑ヲ乞ハン  
トスル所以ナリ

0140



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0142

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0143